

平成13年発生災害 復旧事業について

国土交通省河川局防災課長補佐

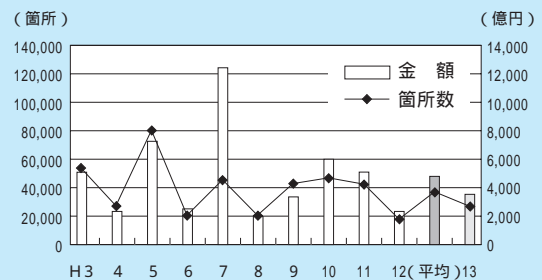
かたおか けんいち
片岡 賢一

1 はじめに

平成13年は、1月から3月上旬にかけての低温災害（北海道・東北地方を中心に被害）、3月24日に発生した芸予地震（広島県、愛媛県などで被害）、6月から7月中旬にかけての梅雨前線豪雨（九州地方を中心に被害）、8月中旬に上陸した台風11号（関東・中部地方を中心に被害）、9月から10月上旬にかけての秋雨前線豪雨（高知県、鹿児島県などで被害）、9月上旬に上陸した台風15号（東日本を中心に被害）、10月中旬の秋雨前線と台風21号に伴う豪雨（大分県、宮崎県などで被害）など、全国各地で風水害等が発生した。

平成13年発生災害に係る国土交通省所管公共土木施設の災害復旧事業費は、全国で26,348箇所、約3,236億円となっており（平成14年1月15日時点の集計の決定額）、過去10年間平均と比較すると発生箇所数、被害金額ともに約7割となっている（図1）。

図1 最近10カ年の災害復旧事業費の推移



（注）H13は平成14年1月15日現在。平均はH3～12の平均値。直轄を含む。

2 平成13年災害の概要

(1) 低温

今冬は冬型の気圧配置となる日が多く、北海道、東北地方などでは、1月から3月上旬にかけて、平均気温が平年を大きく下回った。これらの低温により道路の路盤が凍結した結果、道路のひび割れ、不陸などの被害が発生し、交通に支障をきたすこととなった。

このため、財政当局と協議の上、昭和61年以来15年ぶりに「凍上災」として、路面の復旧等を採択することとなった（写真1）。

写真 1 一般国道国道338号佐井村磯谷地内（青森県）



写真 3 一般国道筑後川水系有田川



(2) 芸予地震

3月24日15時28分頃、安芸灘を震源とした地震（マグニチュード6.7）により、広島県では震度6弱、山口県、愛媛県では震度5強を観測し、中国地方、四国地方、大分県で強い揺れに襲われた。この地震により、広島県、山口県、愛媛県等で、死者2名、負傷者287名、住家全壊69棟、住家半壊749棟、住家一部損壊48,602棟の被害が発生した（写真 2）。

写真 2 主要地方道西条久万線（石鎚スカイライン）



(3) 梅雨前線豪雨

6月から7月中旬にかけて、梅雨前線の活動が活発となり、西日本を中心とする各地で、断続的に大雨となった。

この大雨の影響により、死者1名、行方不明者1名、負傷者18名、住家全壊5棟、住家半壊11棟、住家一部損壊172棟、床上浸水234棟、床下浸水2,447棟の被害が発生した（写真 3）。

(4) 台風11号

8月14日に発生した台風11号は、17日に中心気圧960hpa、最大風速35m/s、15m/s以上の強風域が南1,000km、北800kmの超大型で強い台風に発達した。その後、大型で強い勢力を保ったまま、21日に和歌山県南部に上陸し、東海地方沿岸、関東地方沿岸、東北地方沿岸と太平洋沿岸を北上し北海道に再上陸した後、23日に温帯低気圧に変わった。

この台風の通過に伴う大雨、強風等により、死者6名、負傷者32名、住家半壊1棟、住家一部損壊45棟、床上浸水84棟、床下浸水634棟の被害が発生した（写真 4）。

写真 4 御前崎海岸（静岡県御前崎町白羽地先）



(5) 秋雨前線豪雨

高知県西南部豪雨

前線が四国付近を北上し、西日本付近に停滞。その前線に向かって暖かい空気が流れ込んで、強

い雨雲が発生し、時間雨量100mmを超える豪雨が高知県西南部を襲い、負傷者8名、住家全壊25棟、住家半壊269棟、住家一部損壊12棟、床上浸水269棟、床下浸水541棟の被害が発生した（写真 5）。

写真 5 二級河川宗呂川（高知県土佐清水市宗呂）



(6) 台風15号

9月4日に南鳥島の南の海上で発生した台風15号は、9日に中心気圧950hpa、最大風速40m/s、15m/s以上の強風域が北東850km、南西560kmの大型で強い台風に発達した。その後、ゆっくりと北上し、神奈川県鎌倉市付近に上陸し、関東地方東北地方沿岸を北上し、北海道根室市の東北東で温帯低気圧に変わった。

この台風の通過に伴う大雨、強風等により、死者5名、行方不明者3名、負傷者48名、住家全壊5棟、住家半壊8棟、住家一部損壊149棟、床上浸水112棟、床下浸水726棟の被害が発生した（写真 6）。

写真 6 市道大屋丸子線上田市大石橋（長野県）



(7) 秋雨前線と台風21号に伴う豪雨

台風21号の接近で湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発化し、大分県南部と宮崎県北を中心に時間雨量100mmを超える豪雨となり、大分県において、床上浸水65棟、床下浸水275棟の被害が発生した。

また、宮崎県において、住家半壊2棟、住家一部損壊9棟、床上浸水93棟、床下浸水483棟の被害が発生した（写真 7）。

写真 7 二級河川浦尻川水系折内川（宮崎県延岡市浦城町）



3 公共土木施設の被害概要

国土交通省所管公共土木施設の被害は、工種別被害報告額にて分類すると、道路が約49%、河川が約43%と、この2工種で9割以上を占め、続いて海岸約3%、砂防約2%、港湾約2%の順となっている（表 1、図 2）。

また、異常気象別被害報告額にて分類すると、台風が約35%、低温が29%、梅雨前線豪雨が約13%、豪雨が約13%となっている（表 2、図 3）。さらに、直轄災を除く都道府県別の被害報告額では、表 3に示す道県で多く発生している。

表 1 平成13年発生災害工種別被害報告額 (平成14年1月15日現在)
(単位:百万円)

工 種	直 轄		補 助		合 計	
	箇所数	金 額	箇所数	金 額	箇所数	金 額
河 川	358	75,831	9,217	121,117	9,575	196,948
ダ ム	10	1,592	0	0	10	1,592
海 岸	8	1,500	94	10,241	102	11,741
砂 防	7	837	541	8,066	548	8,903
地すべり	0	0	2	245	2	245
急傾斜地	0	0	5	104	5	104
道 路	17	11,371	15,949	212,716	15,966	224,087
橋 梁	0	0	138	5,336	138	5,336
港 湾	7	1,206	136	7,401	143	8,607
下 水 道	0	0	11	329	11	329
公 園	0	0	62	1,137	62	1,137
合 計	407	92,337	26,155	366,692	26,562	459,029

百万円未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

表 2 平成13年発生災害主要異常気象別被害報告
(平成14年1月15日現在) (単位:億円)

異常気象	直 轄		補 助		計		主な被災地
	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	
冬期風浪および風浪	8	19	41	53	49	71	石川県・新潟県
豪 雨	17	34	4,776	569	4,793	603	高知県・鹿児島県・三重県・宮崎県
地 す べ り	0	0	22	24	22	24	岩手県
融 雪	2	6	192	26	194	32	北海道
地 震	8	5	501	68	509	74	広島県・愛媛県
梅雨前線豪雨	101	113	6,806	473	6,907	586	福岡県・大分県・宮崎県・和歌山県・熊本県・広島県
台 風	270	651	5,408	1,022	5,678	1,673	北海道・栃木県・群馬県・静岡県・長野県・三重県
低 温	0	0	8,108	1,365	8,108	1,365	岩手県・福島県・青森県・宮城県・秋田県
そ の 他	1	95	301	66.5	302	162	
計	407	923	26,155	3,667	26,562	4,590	

表 3 平成13年都道府県別被害報告 (被害報告多額の都道府県・平成14年1月15日現在)
(単位:百万円)

	都道府県名	箇所数	金 額
1	岩手県	2,703	52,770
2	福島県	1,835	27,159
3	北海道	1,395	22,768
4	高知県	1,605	22,384
5	栃木県	818	20,785
6	青森県	1,023	16,150
7	秋田県	993	15,070
8	群馬県	807	15,414
9	長野県	912	14,248
10	宮城県	1,159	14,244

箇所数・金額とも政令市分を含み、直轄分は含まない。

図 2 工種別被害報告額の割合

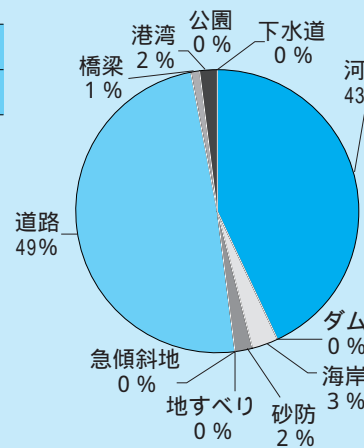
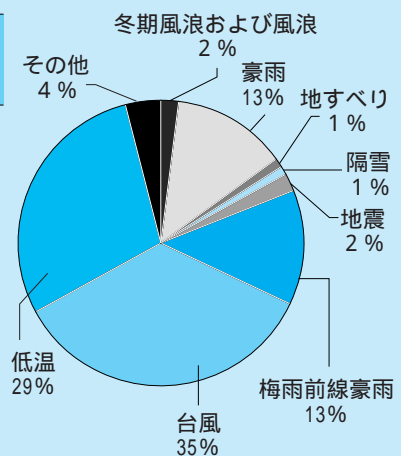


図 3 異常気象別被害報告額の割合



4 おわりに

平成13年発生災害の概要について示してきたが、これらの災害による被災箇所については、社会生活や経済活動に及ぼす影響を最小限にとどめるために、必要な箇所において応急復旧工事を実施するとともに、早期復旧に向けて鋭意事業の推進を図っているところである。また、災害復旧事業の集中的かつ機動的な実施が図られるように、制度の改善、構築に取り組んでいる次第である。